

活動報告 移情閣まつり

公開講座② 日本語教室で学ぶ子どもたち

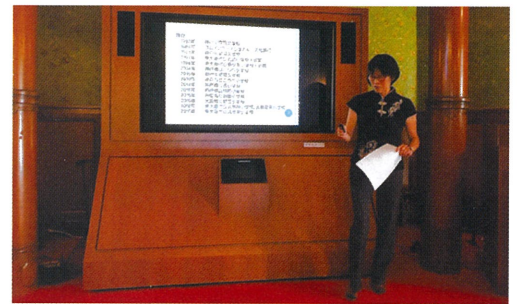
小学校講師 伊奈垣圭映（梁佳恵）

演題は『日本語教室の子どもたち』。時間は40分ほどなので、内容を精選しました。まずは自己紹介、主に自身の学びと奉職した学校概要。そして、「簡体字に挑戦！」とクイズを出しました。車、書、頭…さすが移情閣に集う皆さん、簡単に正解されました。でも、中国や台湾からきた子どもたちは、日本の漢字を新たに学ばなければなりません。字形だけでなく読みや意味、使い方も。その上で教科学習があります。

次に人口から「日本の在留外国人」の状況を法務省や文化庁が公表しているデータから話しました。法務省は、2018年12月末で在留外国人総数を約216万5千人と発表していますが、移住連はその数を324万人とみています。日本語指導が必要な児童生徒数は、この10年で1.7倍の約4万4千人、就学不明が約1万6千人に上ります。それも氷山の一角ではないだろうかと思います。子どもたちの母語も多言語化し、外国ルーツの子どもが100人を超える学校もあれば、1人だけの学校が3,000校近くある。集住と散在の現象が見られる。さらに、日本語指導が必要な子どもが増えているにもかかわらず、指導者がいない事が理由で指導を受けている子どもが減っている。

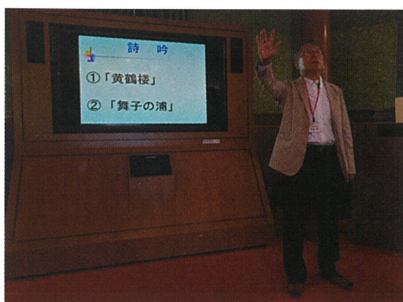
それから、私が関わってきた国際教室のようすを紹介しました。勉強だけでなく学校生活や文化の違いも知らせていく。さらに、保護者と学校を繋げる役割もあり、保護者の相談も受けていきます。学校全体での取り組みや市や府県レベルの取り組みも紹介しました。例えば、外国ルーツの子どもたちが母文化を発表する、日本の子どもたちが体験する行事。また、兵庫日本語ボランティアネットワークの活動から、地域のボランティアによる日本語教室の紹介をしました。

このように日本語学習に努力している子どもたちのこと、在日外国人のことをお話をする機会をいただき、感謝です。



詩吟

移情閣まつりで詩吟を吟じました。賢水は詩吟道撰楠流の号です。このたび、舞子移情閣にちなむ漢詩2題を吟じました。まず「黄鶴楼（崔顥作）」は、踊る屏風絵の黄鶴を描いた仙人の故事の地に建てられた武漢の景勝地の黄鶴楼。四方景勝・望郷を誘う移情閣と合い通じるものがあります。続く「舞子の浦（頼山陽作）」は、明石海峡を望む白砂青松の舞子の情景を歌った漢詩です。詩吟は、中国文化をアレンジして日本独自の文化に育てながら取り入れる日中文化交流の深さを表す芸術でもあります。（斎木賢一）



二胡

2019の秋、移情閣二胡同好会では、10/13の「移情閣まつり」、11/9の「神戸地域ビジョンフェスティバル」、11/17の「孫文2019音楽と講演の会」で演奏をさせていただきました。「移情閣まつり」で弾いた二胡講師の鳴尾牧子先生作曲の「桜鯛の夢」（甘いワルツ）「関守の詩」（千鳥のサンバ）は、鯛の被り物の衣装も併せてお客さまに大好評でした。これからも先生のご指導の下、みんなで美しいハーモニーを目指して頑張りたいと思っています。（二胡同好会 中北富代）

